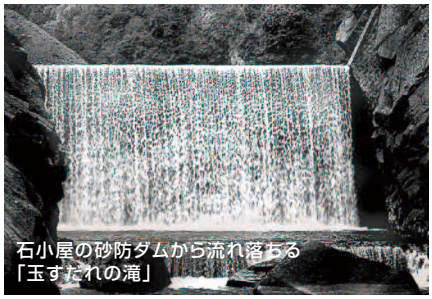
今から55年前のこと

が始まりました。この頃の中津川は台風や大雨
ことが多く、ダム建設の目的として「治水」というが、もうひとつ相模川流域の人口増加により道の供給が追いつかない状態にあり、水がめとしての「利水」という両方のりました。こうして風光明媚な中津がダムにカタチをかえることになったのです

かつて一大観光地としてにぎわった愛川町半原の「中津渓谷」
全国観光百選の一つに選ばれるなど、風光明媚な観光地として親しまれ、
年間100万人を超える観光客が訪れていました。


石小屋の砂防ダムから流れ落ちる「玉すだれの滝」

観光客でにぎわう隠川の河川敷

地名の由来にもなった中津渓谷の巨石「石小屋」で遊ぶ子どもたち

日向橋下での八雲祭のお浜降り

中津渓谷の石小屋周辺には旅館や土産物屋が並び、食堂ではしし鍋やアユ料理、山菜料理などが提供され、観光客でにぎわっていました。

建設工事に着手 ▶ 63年2月 仮排水トンネル転流開始 ▶ 平成元年10月 本体掘削着手

ダム贈りモノ

YouTube 愛川町チャンネルで動画バージョンをお楽しみいただけます。

「中津渓谷」。現在、この地は宮ヶ瀬ダムに姿を変え、
無くてはならない存在となっています。
ではありません。
人が訪れる観光名所となりました。
お楽しみください。

3年10月本体コンクリート打設開始（定礎式11月） ▼ 5年3月 石小屋ダム着手、道志導水路・津久井導水路着手 ▼ 6年11月 本体コンクリート打設完了 ▼ 7年10月 試験湛水開始

建設に17年

ダム建設に伴い281戸の方々が移転を余儀なくされましたので、皆さんにご理解、ご協力をいただくのに15年を要しています。
ダム建設で最初に取りかかることは道路を作ることです。工事用の道路やダム本体工事のため中津川を迂回させる仮排水トンネルを作ります。
平成元年にはダム本体の掘削が始まり、2年後にはコンクリートの打設が始まりました。
平成5年には当時の皇太子殿下のご成婚を祝って日米交流コンサートを行うなど、次第に宮ヶ瀬ダムは注目を集めるようになりました。平成7年からは試験湛水が開始され、ここから約3年かけてゆっくりと水を貯めていき、宮ヶ瀬ダムは完成しました。

神奈川ニュース「平成6年10月」より

10年10月 試験湛水完了 ◀ 9年4月 愛川第1・2発電所運転開始

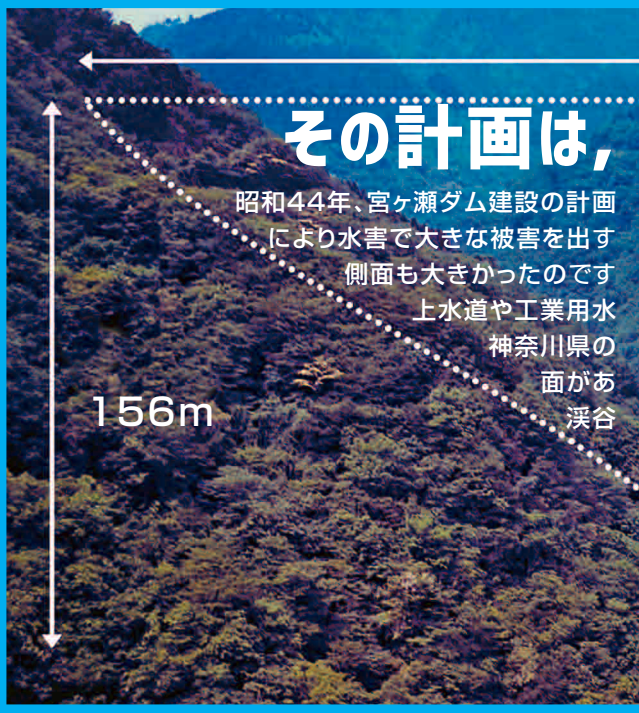
土日は1日2万人の観光客

中津渓谷はかつて横浜や鎌倉に並ぶ、神奈川県の3大名勝のひとつと謳われ、土日は押すな押すなで、道に人が溢れかえってました。
今の東京の竹下通りの休日よりも混んでいる感じで、それはまるでお祭りのようでした。おそらく1日に2万人ぐらいは観光客が来ていたのではないかなと思います。
中津渓谷の岩肌はとてもきれいで、一雨降れば、岩がキラキラと光り、まるで宝石のようでした。中津川の清流も今と変わらず美しく、カワセミもよく見ましたね。

当時は石小屋にあった
観泉荘こまや　小泉稔雄さん

53年12月 宮ヶ瀬ダム基本計画決定(公示) ◀ 53年5月 ダムサイトが石小屋地点に決定

▼56年8月 水没地、一般損失補償基準調印(清川村、津久井町)



▼59年3月 仮排水トンネル工事着手 ▶ 59年6月 ダムサイト用地、一般損失補償基準調印(愛川町) ▶ 62年11月 本体

特集 宮ヶ瀬からの

MANY GIFTS FROM MIYAGASE DAM

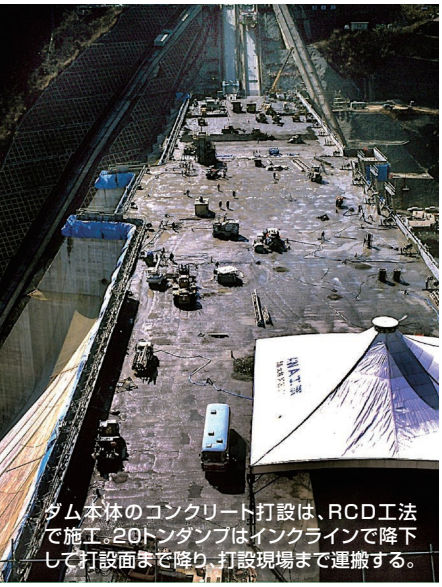
かつて一大観光地としてにぎわった愛川町半原の
治水や利水の側面から私たちの生活に
しかし、宮ヶ瀬ダムの役割はそれだけ
以前の中津渓谷にも負けないたくさんの
宮ヶ瀬ダム誕生の物語を

最新技術を凝らした 宮ヶ瀬ダムのRCD工法

宮ヶ瀬ダム工事では、200万立方メートルにおよぶ大量のコンクリートを効果的かつ経済的に施工するためにRCD(RollerCompacted Dam-Concrete)工法を採用。当時の建設省が世界に先駆けて開発したダムの効率的な施工方法で、セメントの量を抑えた超硬練りのコンクリートを敷き均して、振動ローラにより固める工法です。

宮ヶ瀬ダムにおけるRCD工法の特徴は、世界で初めてのダンプ搭載型のインクライン導入や振動ローラなど新しい施工機械の導入など、さまざまな最新技術を凝らして施工を行ったことです。これにより従来の工法に比べ、安全性の向上、経費削減、工期短縮が可能となりました。

国土交通省 関東地方整備局
相模川水系広域ダム管理事務所
佐藤 薫 広域水管理課長



ダム本体のコンクリート打設は、RCD工法で施工。20トンダンプはインクラインで降下して打設面まで降り、打設現場まで運搬する。

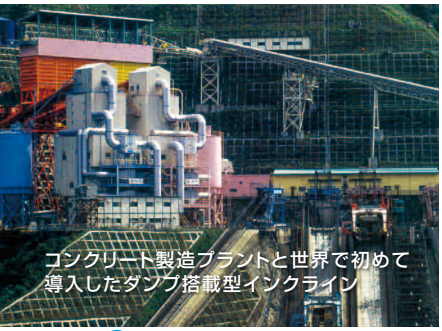
知ってる?

横浜ランドマークタワーとほぼ同体積のコンクリートでダムを建設!

宮ヶ瀬ダムは首都圏最大級のダムでコンクリートの使用量は200万立方メートルと膨大。なんと、これは横浜のランドマークタワーと同じ体積となります。

本体工事のための工事用道路

昭和44年9月 宮ヶ瀬ダム計画の発表
貯水容量約2億トンの宮ヶ瀬湖



コンクリート製造プラントと世界で初めて導入したダンプ搭載型インクライン

中津川の河床を工事用の道路として使用するなど、ダム建設は自然環境に細かな配慮をして進められました。

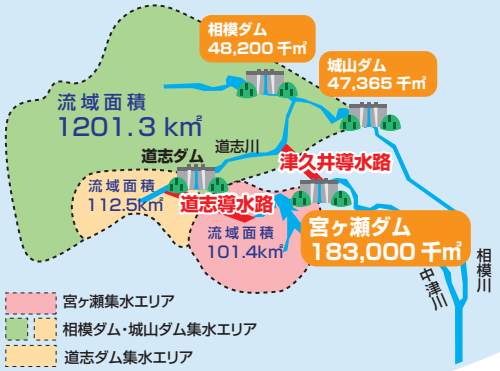
準備に15年、

問 商工観光課 観光振興班 ☎(内線)3523

◀◀◀◀ 13年4月 宮ヶ瀬ダム本格運用開始 ◀ 13年3月 道志導水路完成、宮ヶ瀬ダム建設事業完成 ◀ 12年12月 宮ヶ瀬ダム本体工事完了 ◀ 11年4月 本体および津久井導水路による一部運用開始

相模川水系の3つのダムによる効率的な総合運用

ダムの上流で降った雨は、最終的に各ダムの貯水池に集まって流れてきます。
相模・城山ダムは「貯まりやすいが、たくさん貯められない」、宮ヶ瀬ダムは「たくさん貯められるが、貯まりにくい」という特徴があります。
この特徴をうまく活用できるように、2つの導水路(「道志導水路」と「津久井導水路」)を使って、ダムに効率良く貯めたり、下流河川に必要な水を流したりすることで、水資源の有効活用を図っています。

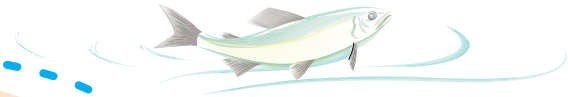


3 洪水を防ぐ

台風などで大雨が降ると、川があふれて洪水や土砂崩れなどの大きな被害を引き起こすこともあります。
宮ヶ瀬ダムの役目は大雨のとき、流れ込む水を一時的に貯めて安全な水量だけを下流に流すことで、中津川流域や相模川下流域の人々を守ることです。100年に1回の確率で起こる大洪水では、1秒間に1,700立方メートルもの水が流れ込むと予想されていますが、そのうち1,600立方メートルをダムでせき止めることができます。

4 川の環境を正常に保ちます

雨が少ないと川の水量が減り、魚などの生き物が死ぬなど健全な川の環境を保つことが難しくなってしまいます。こんなときダムは貯めておいた水を川に放流して必要な水を補給し、川の水が少なくなることを防ぎます。川に流れる水量を正常に保つことで、川に住むさまざまな生き物や人々の健康を守ることにもつながります。



宮ヶ瀬ダム 5つのやくわり

宮ヶ瀬ダムならではの魅力

宮ヶ瀬ダムは、かつての中津渓谷がそうであったように、たくさんの方々が訪れる憩いの場にもなっています。
治水や利水といったダムの機能面だけでなく、このような観光スポットとしての側面を持つところも、宮ヶ瀬ダムならではの魅力と言えるのではないでしょうか。

愛川町郷土資料館
藤田館長

「宮ヶ瀬ダムナイト放流」

宮ヶ瀬ダムでは、全国のダム観光の取り組みとしても珍しい、夜間放流を行う「宮ヶ瀬ダムナイト放流」を毎年開催。色とりどりのライトアップと音楽の演出をまとったダイナミックな放流、ドラマティックな打ち上げ花火、さらには地元にゆかりのあるミュージシャンによるライブ演奏など、さまざまな演目を楽しみながら、ご当地フードなど屋台グルメを堪能することができます。

宮ヶ瀬ダム 水とエネルギー館

ダムや水資源、エネルギーに関する豊富な情報が揃う体験型のアミューズメント施設です。楽しみながら学習するのがコンセプトで、ユニークな仕掛けが施されています。

水とエネルギー館内にあるレイクサイドカフェの人気メニュー「ダムカレー」

楽しめる乗り物がいっぱい!

宮ヶ瀬ダムでは、工事中に活躍したダンプトラック搭載型インクラインの一部を活用した「宮ヶ瀬ダムインクライン」や県立あいかわ公園やダムの景色を車窓からゆっくり楽しめるロードトレイン「愛ちゃん号」などの乗り物が運行されています。

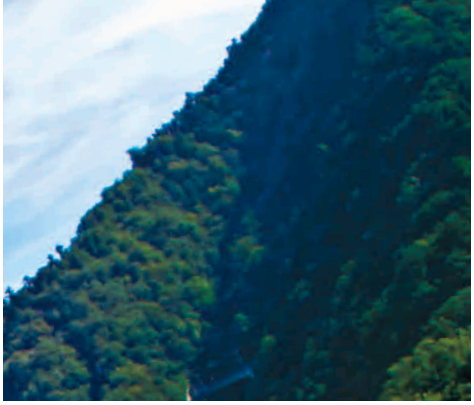
フーチング階段の特別開放

毎年4月に県立あいかわ公園で開催される「あいかわ公園つつじまつり」では、宮ヶ瀬ダムの観光放流や普段は入れない「フーチング階段」の開放なども行われ、たくさんの来場者でにぎわいます。

開放されたフーチング階段からダムを眺める来場者

特集 MANY GIFTS FROM MIYAGASE DAM

宮ヶ瀬ダムからの贈りモノ



1 県下16市5町の水がめとして

私たちの暮らしに水は不可欠な存在です。日照りが続き川の水量が少なくなったときのためにダムは水を貯めています。
箱根の芦ノ湖とほぼ同じ量の水を貯めることができる宮ヶ瀬ダムは、横浜市や川崎市を含む神奈川県下16市5町に水道水を供給。県内の多くの家庭が利用する水を供給している宮ヶ瀬ダムはまさに神奈川県の水がめとして重要な役割を果たしています。

2 水力発電も

宮ヶ瀬ダムでは、貯めた水を利用して水力発電も行っており、ダムから勢いよく放流される水のエネルギーは、私たちの暮らしに豊かさや便利さをもたらす電気をつくることに利用されています。
ダム下流にある2つの発電所では放流水を利用し、一般家庭の約21,000世帯分の電気を発電できます。

5 観光スポットとして

全国的にも珍しい 定期観光放流（4月～11月）

毎週水曜、第2・4金曜、第2日曜
午前11時～、午後2時～

宮ヶ瀬ダムで行われている観光放流は、放流量が1秒間に30立方メートル、放流時間は6分間におよびます。
まさに想像を絶する水量が織り成す、ダイナミックな人工瀑布。「ゴ ゴ ー ッ」という轟音とともに、2本の白い水の筋がどんどん太くなり、その流れ落ちた先の川底からは、水しぶきがまるで煙のように舞い上がります。
晴れた日は美しい虹も架かるこの壮大なショーを一目見ようと、多くの観光客が訪れています。

石小屋ダムあっての観光放流

石小屋ダムは宮ヶ瀬ダムの下流に位置する副ダムで、宮ケ瀬ダムの放流水の減勢や発電、津久井導水路のための水位確保のために建設されました。現在の宮ヶ瀬ダムの観光放流ができるのはこの副ダムがあるからなのです。
平成5年に工事着手し、平成8年に完成 。名称は一般公募で名付けられました。デザインは中津渓谷の景勝地、石小屋にちなんだもので、ダム外観は自然石調で中津渓谷のイメージを表現しています。

台風などの大雨のときにしか行われない希少な石小屋ダムの越境放流